

龍のまなび舎 No.21

須坂高校のまなびを紹介する不定期ニュースレター
北信「五岳」にちなんだ、須坂の5つのゴガクを紹介します

クラスマッチ



信州大学教育学部の松島先生を講師にお迎えしての哲学対話。今回は10名の大学生もアドバイザーとして参加してくださいました。今回のテーマは『流行』。小学校や中学校で流行したものを挙げながら、流行とはなんなのかを考えました。これから1年生は、大学見学や来年度に向けた科目選択など、『自分の道を選択する』時期を迎えます。「みんながそうするから」「そうする人が大多数だから」そうするのか、それとも…。流行について考えたこの機会が、皆さんの今とこれからを豊かにしてくれますように。以下、皆さんの感想です。

番外編

GO!

先生も頑張ってます③



「クラスマッチで教員チーム、作りませんか？」ある日の職員会。秋季クラスマッチにて教員チームが結成されました。

勝負に向けて、ノリノリの教員チーム。「教員Tシャツとかあったらいいよね～」という先生方の会話を耳にしました。何事にも前向き・全力で挑む須坂高校の先生方は、いつも本当に素敵です。その挑戦力は自然と広がっていくもので、気がつくと、私の手にはタブレットとペンシルが。決して絵を描くことは得意ではないですが、「デザイン頑張りたい」と、ふと思いました。丸山先生をはじめとして周りの先生方が賛同してくださって、教員チームTシャツ製作が始まりました。

表面は、りんどうの花と須坂高校の「高」を織り交ぜたワンポイントデザイン、背面はりんどうの花を持つ「りゅうたん」がモチーフのデザインです。りゅうたんのシルエットは、本校教員の教科名で縁取り、教科・学年の枠を超えて団結する教員チームの『臥龍魂』を表現しました。

すべては小さな「やってみよう」から始まりました。この教員Tシャツが、少しでも教員チームの団結力をより高めるきっかけになったら、嬉しく思います。(家庭科・山口先生)

龍のまなび舎 No.20

須坂高校のまなびを紹介する不定期ニュースレター
北信「五岳」にちなんだ、須坂の5つのゴガクを紹介します



1 年生 『哲学対話』

信州大学教育学部の松島先生を講師にお迎えしての哲学対話。今回は 10 名の大学生もアドバイザーとして参加してくださいました。今回のテーマは『流行』。小学校や中学校で流行したものを挙げながら、流行とはなんなのかを考えました。これから 1 年生は、大学見学や来年度に向けた科目選択など、『自分の道を選択する』時期を迎えます。「みんながそうするから」「そうする人が大多数だから」そうするのか、それとも…。流行について考えたこの機会が、皆さんの今とこれからを豊かにしてくれそうです。以下、皆さんの感想です。

昔の流行を思い出して、みんな同じ道を歩んできて面白かった

昔あんなに熱中したものが今は思い出せないくらい忘れていたことにびっくりした



流行について話す中で楽しいのはもちろん、なんで流行するのかなど疑問も生まれて楽しかった。たくさん質問に答えられたさりすがとうございました。

立石先生は何歳なのか



こういう対話をするとき、自分の意見と同じような意見を持つ人だけでなく、逆に自分とは違う考えを持つ人はどんな考えを持っているのか意見を聞くようにしてみたい

誰が流行を生んでいるんだろう

哲学ってなに？

対話終了後、大学生に、大学進学や教育学部の様子などについて質問に来てくれる人もいました。10 月の大学見学では、信州大学も見学コースの 1 つになっています。進学することの意味や、自分の本当の興味関心を、見学を通して見つめ直してみてください。そして、様々な視点に気づくこと、問うこと、問い直すことを来年度の探究に活かしてほしいと思います。

番外編

GO!

先生も頑張ってます②

10 月 2 日は職員の健康診断に基づく医師との面談。「3 年前から体重が徐々に増加…」「尿酸値がちょっと…」。検診を終えた先生の顔には浮かばない表情も。そんな中、英語科では筋トレ部が発足しています。各自家でのトレーニングに加えて、この日は学校のトレーニングルームで汗を流しました。通りがかった生徒からの応援の言葉（と苦笑い）ももらいつつ、先生方も健康第一で！



龍のまなび舎 No.19

須坂高校のまなびを紹介する不定期ニュースレター
北信「五岳」にちなんだ、須坂の5つのゴガクを紹介します

フィールドワーク紹介号

前号に引き続き、2年生の探究活動をフィールドワークの様子を中心にお届けします。



グループ 31 テーマ：「フリーズドライ食品の開発」



『フリーズドライの宇宙食や非常食を作る』をテーマとするグループです。災害時に手に入りやすいもので、誰にでも簡単に作れる非常食を、という思いからスタートした探究です。まず、学校にあった理科の実験器具を使って、バナナ、おやき、中華まんの凍結減圧乾燥をやってみました。（左）結果は、水分がうまく抜けず、失敗。そこで地元企業のアスザックフーズに赴き、施設の見学、実験のアドバイスを頂きました。（左）夏休み明けに、果物を使って再実験。水分量を減らすという点においてはうまくいったそうです。（右）まさに失敗から学び、修正を加えていくという探究サイクルにうまく乗っていますね。

グループ 22 テーマ：「蔵の町スタンプラリー」



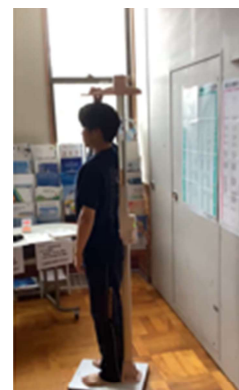
蔵の町としての須坂市の魅力を知ってもらうことをテーマとするこのグループは、多くの人に須坂市について知ってもらい、市内の観光スポットに足を運んでもらうための仕組みを考え、須坂市観光協会の清水さんに提案を行いました。内容は好評で、できる限り協力したいという申し出も頂きました。アドバイスを頂き、市内の店舗に協力を依頼してデジタルスタンプラリーを行う方向で準備をしています。

グループ 13 テーマ：「身長と遺伝の関係」



「身長は遺伝を超えられるのか」をテーマに掲げるグループでは、身長を高くするための方法をいくつか実践してみました。今のところ、写真左の方法で、実践前よりも 3mm 身長が伸びたという結果が出たそうです。更に、その伸びた 3mm がどれくらい持続するのかについても調査中。誤差の範囲なのか、もっと有効

な方法は見つかるのか、興味のある人も多いのではないのでしょうか。



龍のまなび舎 No.18

須坂高校のまなびを紹介する不定期ニュースレター
北信「五岳」にちなんだ、須坂の5つのゴガクを紹介します

夏休み中も探究してました！



夏休みを利用して、2年生の多くの探究グループが外部でのフィールドワークを行いました。専門家へのインタビューや体験活動など、内容もさまざまです。今回の通信では、2グループについて、フィールドワークを含むこれまでの活動を紹介します。この2つのグループは、今年度から結成された『須坂高校探究応援団』という、須坂高校の探究のためにひと肌脱ぎと、力を貸して下さる大人たちのリストの中から実際に協力をお願いしたグループです。通常のお仕事に加えて高校生のためにお時間を割いていただき本当にありがとうございました。



グループ 16 テーマ：「子ども、遊び、創造性」

須坂市教育委員会の西原秀明さんに取材し（左上）、「非認知能力」というキーワードをいただくとともに、児童館での実習へとつないでいただきました。須坂市南部児童館での一週間ほどの実習（左下）では、子どもたちとともに遊び、学び、変わっていく自分たちにも目を向けて考察することができました。最終日には、自分たちの考えた遊びを実践する場面をいただくことができ、遊びがもたらす創造性について具体的なエピソードをもとに考えることができたと思います。一週間をとおり、**「自分たちの探究のため」よりも「目の前の子どもたちのために何ができるか」という情熱でかかわり続けたメンバー**たち。児童館館長先生からは「失敗も含めてすべて学びです。わかったこと、わからなかったこと、考えたこと、すべてを生かしてください。」とコメントいただきました。実習の振り返りやここからの展開も楽しみです。



グループ 26 テーマ：「死刑制度の是非」

「修復的司法*」の考え方を提案する小布施町図書館館長の志賀アリカさんにインタビューしました。「一度決めたことを変えてもいい、違う意見を拒絶せず、いろいろな意見とともにありながら、その都度自分の考えとその理由をはっきりといえることが大事なのではないか」という言葉に大きくうなづくメンバーたち。志賀さんの「性弱説」に基づく法のあり方の解釈に対して、メンバーから「抑制の利かなさ（性弱）なのは、本人のせいではないのではないか（生まれつきや環境がそうさせた）。それなら、そのことが原因で法を犯して刑罰を受けるのは差別ではないか」という問いがでたことでさらに、法とは何か？ 人間とはどのような存在か？ 私たちはどのような社会に生きることを願うか？ 死刑制度はそのような願いを本当に実現するものか？ …と、吟味が深くなっていきました。

***修復的司法**：当該犯罪に関係する全ての当事者が一堂に会し、犯罪の影響とその将来へのかかわりをいかに取り扱うかを集団的に解決するプロセス、又は犯罪によって生じた害を修復することによって司法の実現を指向する一切の活動を言う（Wikipedia）

龍のまなび舎 No.17

須坂高校のまなびを紹介する不定期ニュースレター
北信「五岳」にちなんだ、須坂の5つのゴガクを紹介します

2 年探究 フィールドワーク実践中



1 学期の探究はあと 2 時間。すでに実験やインタビューを始めているグループもあります。それぞれの、フィールドワークに向けた取り組みを紹介します。



(左) リーフレタスの水耕栽培を開始。レタスの種をピンセットで植えていきます。発芽するまでは水のみで育て、そこから探究テーマである、「調味料を肥料として」育てます。この探究は液体肥料の成分を調べ、調味料との類似点に気づいたところから始まりました。

(右) 介護施設の意義について考えるグループが、実際に介護施設の職員の方や利用者の方にインタビューを行うために電話で依頼をしている様子です。始めのうちは緊張していましたが、きちんと準備をして (YES/NO チャートを作っていました) メモを取りながら会話をしていたので、とてもスムーズに理解を頂けました。これからのグループも頑張ろう！



番外編

GO!

生徒も先生も頑張ってます！



ある日の放課後、2 年生の英語探究 A の授業を受け持ちの 3 人の先生方が激論を交わしています。話題は英単語“never”。たった 1 語ですが、生徒が使い方をどう間違えているのかを分析。どうすれば正しい使い方が定着するのかについて、「〇〇してみたら?」「いやいや、それだと…」とアイディアを出し合っている様子です。こんなふうに毎日の授業は作られています。教師はブラック? いえいえ、いろんな色が混ぜ合わさって、何とも言えない複雑な色をしてるんです。

右の写真は、7 月 13 日に行われた小布施見にマラソンの 1 コマ。須坂高校からも、生徒職員含めて多くの参加がありました。「この大会は、速さを競うだけでなく、時には立ち止まり、小布施を見て、楽しみながら走る見に (ミニ) マラソンです。小布施の町の人とランナーのみなさん、ボランティアのご縁をつなぐ「縁走 = えんそう」を楽しみましょう。」(HP 大会コンセプトより) 須坂高校に通う皆さん、隣町とも縁をつないでみるのはいかがでしょうか。



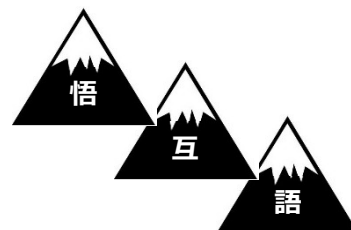


龍のまなび舎 No.16

須坂高校のまなびを紹介する不定期ニュースレター
北信「五岳」にちなんだ、須坂の5つのゴガクを紹介します

さまざまな学びが行われています

右の写真は3年生の自由選択科目『異文化理解』の様子です。この日は本校卒業生で、現在アメリカの大学に留学中の広瀬ダニエルさんにお越し頂き、アメリカでの大学生活についてご紹介頂きました。広瀬さんの通っている大学では、事前に課題図書を読んできて、その内容について議論をする、というスタイルの授業が多いそうです。また、成績（評定的なもの）よりもレジュメ（どんな経験をしてきたかの履歴書）が重視されるそうで、知識よりも経験が評価されるそうです。その他にも、学食で出されるメニューや、寮での生活の様子を写真を交えて紹介してくれました。次回からこの授業では、世界各国の教育事情について調べていく予定です。



続いてご紹介するのは、2年生の『公共』。これまでの授業での学んだことのなかから、生徒が抱いた疑問について全員で対話をしながら「思考する」、**てつがく対話**を行いました。この講座での問いは「若人が選挙になぜいかないか」というもの。出された意見をホワイトボードやワークシートにまとめたりしながら、相互行為的に考えを深めていきます。出される意見も「若者はたった一票ではなにも変わらないと思っているんじゃないか」「選挙に行かないのは本当に若者だけなの？大人は本当に投票に行っているの？」「じゃあ政治なんていない？」などさまざま。また、翌日行われた別の講座での問いは「死刑制度は続けるべきか」。テーマの重たさと50分間の思考に、担当の綿内先生も授業後にはどっと疲れが出たそうです。

授業で知識をつけることももちろん大切ですが、得た知識をどう使うのか、知識を得た自分は「知らなかった自分」とどう違っているのか。思考する者にしか得られない景色を見るために、須坂高校では今日もさまざまなスタイルの学びが行われています。



松島先生（信州大）による哲学対話
日時：9月29日（月）
場所：須坂高校体育館 or HR 教室
対象：1 学年



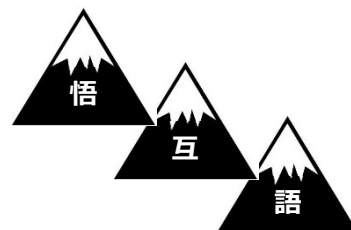


龍のまなび舎 No.16

須坂高校のまなびを紹介する不定期ニュースレター
北信「五岳」にちなんだ、須坂の5つのゴガクを紹介します

さまざまな学びが行われています

右の写真は3年生の自由選択科目『異文化理解』の様子です。この日は本校卒業生で、現在アメリカの大学に留学中の広瀬ダニエルさんにお越し頂き、アメリカでの大学生活についてご紹介頂きました。広瀬さんの通っている大学では、事前に課題図書を読んできて、その内容について議論をする、というスタイルの授業が多いそうです。また、成績（評定的なもの）よりもレジュメ（どんな経験をしてきたかの履歴書）が重視されるそうで、知識よりも経験が評価されるそうです。その他にも、学食で出されるメニューや、寮での生活の様子を写真を交えて紹介してくれました。次回からこの授業では、世界各国の教育事情について調べていく予定です。



続いてご紹介するのは、2年生の『公共』。これまでの授業での学んだことのなかから、生徒が抱いた疑問について全員で対話をしながら「思考する」、**てつがく対話**を行いました。この講座での問いは「若人が選挙になぜいかないか」というもの。出された意見をホワイトボードやワークシートにまとめたりしながら、相互行為的に考えを深めていきます。出される意見も「若者はたった一票ではなにも変わらないと思っているんじゃないか」「選挙に行かないのは本当に若者だけなの？大人は本当に投票に行っているの？」「じゃあ政治なんていらない？」などさまざま。また、翌日行われた別の講座での問いは「死刑制度は続けるべきか」。テーマの重たさと50分間の思考に、担当の綿内先生も授業後にはどっと疲れが出たそうです。

授業で知識をつけることももちろん大切ですが、得た知識をどう使うのか、知識を得た自分は「知らなかった自分」とどう違っているのか。思考する者にしか得られない景色を見るために、須坂高校では今日もさまざまなスタイルの学びが行われています。



松島先生（信州大）による哲学対話
日時：9月29日（月）
場所：須坂高校体育館 or HR 教室
対象：1 学年





龍のまなび舎 No.15

須坂高校のまなびを紹介する不定期ニュースレター
北信「五岳」にちなんで、須坂の5つのゴガクを紹介します



『通学合宿』事前交流が始まりました

昨年度から行われている、小学生と高校生が公民館で1週間共に生活する『通学合宿』に、今年度も須坂高校から2,3年生合わせて13名が参加します。小学生の命を預かる1週間。高校生には大変な責任が伴うため、すでにミーティングを重ね、食事や移動、スケジュールなどの綿密な準備を行っています。

参加する高校生を小学生の皆さんに知ってもらうため、井上小学校のなかよし集会に参加し、交流をしてきました。なかよし集会とは、人権月間に併せて、人と人の垣根を低くし、学年や校種の枠を超えてお互いを理解し助け合おうという理念のもと、講話やレクを行うものです。高校生もはじめは緊張したようですが、子供たちの様子にも助けられ、多くを感じたようです。



手探りながらも精一杯こどもたちと関わろうとする高校生の熱心なまなざしに、井上小の担当の先生からも褒めの言葉を頂きました。次回の交流は6月13日のクラブ活動です。



2 学年探究活動 - グループ、担当教員が決まりました

2年生の探究活動も3カ月目に入り、多くのグループでテーマが決定してきています。今年度は、調べ学習で終わらないか、社会的意義があるかななどを探究委員会の先生との面談を行いながらチェックしています。面談をしていて気が付くのは、「答えのない1つの問いに、どれだけ長く向き合えるか」がとても大切だということ。1回クリックすれば知りたいことが知れるという環境は皆さんに、考えても分からないことから逃げたり、簡単な道を選ばせてしまうでしょう。でもみなさんがこれから進む道は、一問一答の世界でしょうか。

考えがぶつかったり、考えても明かりが見えなかったり、そんな状況をこそ、この1年間で楽しんで欲しいと思います。すでに確定したテーマの一部を紹介します。まだ検討中の皆さんは参考にしてください。



国内外の校則の違いとそれぞれにおける意義とは



水耕栽培のリーフレタスは身近な調味料で栽培収穫できるのか



犯罪加害者とその家族の人権は保障されるべきなのか



高校生でフリーズドライの宇宙食や非常食は作れるのか



動きを連想させる音楽の作曲法とは

